

赵平 李玲 ◆ 主编

RIYU WENXUE ZUOPING
DUJIE YU FANYI

日语文学作品 读解与翻译

読んで深めよう

文学作品による日本語の
読解と翻訳

中国科学技术大学出版社

H369.4

64

赵 平 李 玲 ◆ 主 编

日语文学作品

读解与翻译

読んで深めよう

文学作品による日本語の

読解と翻訳

北方工业大学图书馆



00573376

中国科学技术大学出版社

ACX13/09

图书在版编目(CIP)数据

日语文学作品读解与翻译/赵平,李玲主编. —合肥:中国科学技术大学出版社,
2005.2

ISBN 7-312-01761-4

I. 日… II. ①赵… ②李… III. ①日语—阅读教学 ②日语—翻译
IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 137589 号

日语文学作品读解与翻译 赵平 李玲 主编

中国科学技术大学出版社出版发行

(安徽省合肥市金寨路 96 号,邮编:230026)

电话:3602905 传真:3602897

网址:<http://www.press.ustc.edu.cn>

合肥学苑印务有限公司印刷

全国新华书店经销

开本:787mm×960mm 1/16 印张:29.5 字数:566 千

2005 年 2 月第 1 版 2005 年 2 月第 1 次印刷

ISBN 7-312-01761-4/H·345

定价:38.80 元

序

中村 宏

根が島国根性のせいなのか英語が嫌いだったのだから、私は、ラフカディオ・ハーン（Lafcadio Hearn 1850-1904）の作品だけはなぜか好きだった。ハーンは、明治の半ばに、ジャーナリストとして太平洋を渡り日本にきたのだが、意を決するところがあり、教師となるべく松江の地に赴いた。松江は、日本海側の小さな城下町で、今でも江戸時代の面影を残しており、宍道湖（しんじこ）に沈む夕陽が美しい。ハーンは、旧制中学の英語の教師となり、小泉節子と結婚、自ら小泉八雲（やくも）と名乗った。ハーンは、良き伴侶節子の助けをえて、日本の、民話、伝承、怪談、そういったものを収集し、それを素材にして、数々の珠玉の作品を残した。ハーンの文学は日本人の心のなかにしっかりと根付き、それは又日本の文化を英語圏に広く伝えた。後に、ハーンは、東京帝国大学で英文学を講じることとなり、ハーンの日本の英語・英文学教育への貢献もまた大きい。

思うに、私が、ハーンの英語は素直に受け入れられたのは、ハーンが日本を舞台にして日本人の生活や気持ちを優雅な英語で描いてくれたからではないだろうか。しかもそれは日本の心を理解する人の描写であった。私の英語アレルギーは、私が読まれた英語のテキストが、自分とはよほど違う生活と人間が異質の言語でしかも時に思いもよらない感覚で表現されていたことから来ていたのだろうか。ハーン（Lafcadio Hearn）の作品であれば、しばしば、話の大筋は知っていたし、物語の背景を知らなくて困るようなこともなかった。読み始めると、いつのまにかハーンの柔らかな語り口のなかに引き込まれていき、時に英語を読んでいることを忘れた。今の私が、曲がりなりに英語の読み書きが出来るのは、半分はハーンの短篇や中編のお陰だろうと思う。それに、教科書用に編集されたものには、執筆陣の熱意が伝わる丁寧な註や解説が付けられていた。

* 由于排版系统的关系，日语汉字中如“誤”的右半边，“糸”旁等不能正确显示，特此说明，敬请读者谅解。

偶々のことではあるが、私が、最初に大学の教師として赴任したのは松江であった。松江では、ハーン在住の頃から今日まで、ハーンはヘルン先生と呼ばれている。私も、宍道湖の夕映えを見て十五年を過ごした者として、敬意を込めてヘルン先生と呼ばせてもらえるだろうと思う。

日本語を学ぼうとする中国人の学生にとっても、中国を舞台にし中国人の生きざまと文化を、達意な日本語で描いたテキストというものがあって良い。そうした日本語で描かれた中国文学であれば、学生たちは、知らず知らずのうちにストーリーのなかに入っていくだろう。といっても、ヘルン先生のような人がそうそういるものでもないだろうに、私が、そういう文学作品が書ける人に、現実に出会えたのは、人生の驚きでありこれ以上はない僥倖であった。

偶然に同じ数字がまた出てくるのだが、十五年ほどが、趙平氏にお会いしてから光陰矢のごとくに経った。今や氏を博士と尊称しないのは非礼とも思うが、この長年の誼で、趙平氏と呼ばせて頂きたい。この十五年、小生はといえば、小人閑居して不全をなすばかりであったが、そのほとんどを日本で過ごされた趙平氏は、やや異常とも思われる執着心と速度で、日夜、寝食を忘れ、日本語、日本の文学、文化、社会、こうしたものの研鑽を続けられた。ときにバイクの運転中までも古典の暗唱に専念され、衝突事故で空中数十メートルを遊泳され、九死に一生を得て生還されたことさえあった。さらにこの間、幾多の日本人との交流を通して、四書五経を日々の糧とされた奥深い中国的教養に加えて、日本的な義理人情、お歳暮、中元といった気配りまでも身に付けられたのである。ただ、ヘルン先生と違って、日本人の妻は娶らず、才媛にして良き共同研究者である李玲氏をお国から伴ってこられた。ヘルン先生は心の奥底まで日本人になろうとしたのだが、趙平氏は、いくら日本化したようには見えても、中国人として中国人の為の日本語・日本文学研究をされ、中国の学生の教育の為にこそ祖国に戻られたのである(ちなみに小泉八雲は、日本で病没し、墓も日本にある)。私は、光栄にもこのテキストの共同執筆者の一人であり、氏の日本文化への深い造詣と日本語力そのものについて評価すべき立場にはないが。

元々この「バベルの塔」と呼ばれる太古の神話では、舞台は中国ではないのだが、そこはすべての文化の発祥の地なのだから、貴州の貴陽であっても良いではないか。当時、人類はみな一つの言葉を話していた。人々は年毎に増長し、とうとう、石を積み上げて天にまで届く高い塔を築き上げ、なんと天帝に一泡吹かせようとした。天帝は、人間たちの進歩に微笑ましくは思われたが、一寸悪戯がして見たくなり、人間どもの言葉をバラバラにされてしまった。昨日まではたいしたチームワークで巨大プロジェクトを進めていた人類だが、言葉が違ってしまっただけで、共同作業にならない。人々は、次第に、疎みあい、罵りあい、殴りあい、とうとう、塔は崩壊してしまった。その後、それぞれ、同じ言葉を話すもの同士が群れを造り、世界に散り、民族となり、争いを続けている、と。

神意は計り難たしで、天帝は、懲らしめの気持ちもあったかも知れないが、今も、人々の倦まず弛まぬ努力を微笑ましく見守っておられるかも知れない。この努力の一つこそが、このたびの趙平氏をキャップとする精鋭部隊による本書の公刊であろう。高い能力をもつ学生諸君が、寸暇を惜しんで、勉学に励まれれば、このテキストを手にするほどの先見の明ある将来有

為な諸君がそうすることほど確かなことはないが、必ずや、外国語としての日本語をみるみるマスターされるだろう。日が西から昇り東に沈むようなことがあれば別だが。諸君は、生来のではないが、いわば後天的なバイリンガルとして、日本人とは日本語でコミュニケーションを鳥が囀るようにもつことになろう。燎原の火のようにこうした教育が広がれば、中国と日本の交流は、違ったレベルに達することになろう。

ただし、言語を理解すればすぐにすっかりお互いの気持ちが分かるものでもない。「バベルの塔」が倒れて以来、幾星霜が重ねられ、今日、言葉の問題とは別に文化の違いが出来ている。日本語を学ばれる学生諸君には、また同時に、中国文化と日本文化の違いに思いを巡らして頂きたい。コミュニケーションの手段は言葉のみではないし、様々な手段でお互いの理解を図ることもできよう。いずれにせよ、愚公山を動かすの故事の如く、日々の交流は溝を一寸、また一寸と埋めていくであろう。この書の導きで、こうした工夫とともに、日本語を学んでいけば、いつか必ず「あっ、そんな溝を感じた日があったなあ」と懐かしく昔を振り返る日が来よう、諸兄の弛みなき奮闘を乞う。

序

中村 宏

也许是因为岛国根性吧，我本来并不喜欢英语，但不知什么原因，却偏偏喜欢拉夫卡蒂奥·哈恩(Lafcadio Hearn, 1850—1904)的作品。明治中期，哈恩作为一名记者渡太平洋来到了日本，在决定去留的时候，他去松江做了教师。松江是位于日本海一侧的历史古镇，即便现在，江户时代的痕迹依然可见，那宍道湖的夕阳着实美丽。哈恩成为旧制初中的英语教师，与小泉节子结了婚，自名“小泉八云”。在贤妻节子的帮助下，他收集了很多日本的民间故事、鬼怪传闻等，以之为素材，写出了许多精彩的作品。哈恩的文学在日本人的心中生了根，并把日本的文化推广到了英语圈国家。后来，哈恩到东京帝国大学讲授英国文学，对日本的英语·英国文学的教育也做出了极大的贡献。

想来，我之所以能够毫无造作地接受哈恩的英语，就是因为哈恩以日本为舞台，用优雅的英语描写了日本人的生活和内心，而且那是深入到日本人的精神世界的描写。我曾经的英语过敏症也许是缘于我所学过的那些英语教材——它们使用些于我全然生疏的言辞，甚至是想也想像不到的感觉，描写的是与我相去甚远的生活和人。而读哈恩的作品，则因既知道那些故事的梗概，也没有因不了解其背景而感到困难的事，所以读着很顺畅，只要一读起来，不知不觉地就被引入到他那温婉的讲述中而忘记了是在读英语。现在我能凑合着完成英语的读写，多半托福于哈恩的短篇和中篇——那些被编入教科书中的作品，都附有热情的编委们所做的详细的注释与讲解。

纯属偶然，我做了大学教师，最初的赴任地就是松江。在当地，从哈恩在那里的时候起，人们一直称他为“海龙老师”。作为看着宍道湖晚霞渡过了十五年的人，

我也可以怀着敬意这样地称呼他吧。

对于立志学好日语的中国学生来说道理一样,最好有以中国为舞台,用流畅的日语描写中国人的生活和文化的教材。如果是用流畅的日语创作的中国文学,学生们在阅读时就会不知不觉地进入到书中去。虽说像海龙老师那样的人实难产生,令人惊异的是我还真地遇到了能写这样的文学作品的人,说来此生有幸。

同样的数字偶然地又出现了——光阴似箭,我与赵平相识也有了十五个年头。我有时也想,如今不称他博士的话或为失礼,但凭这多年的友谊,还是允我直呼他赵平吧。这十五年我是闲居无为,而这十五年几乎都在日本度过的赵平,却以一种异乎寻常的执著的态度和效率,废寝忘食,日夜不停地钻研日语和日本的文学、日本文化及社会。甚至有一次,他骑着摩托车还专心于古典的背诵,因而发生了撞车事故,他人被抛到空中数十米,九死而一生。这期间,他通过和众多日本人的交流,再加上长期积淀的以四书五经为食粮的深厚的中国式教养,熟悉掌握了日本的世故人情及“岁暮”、“中元”等礼俗。与海龙老师不同的是,他没有娶一个日本妻子,而是与故乡的才女、共同做研究的李玲结伴来到日本的;海龙老师从心底里想成为日本人,而赵平不管看起来多么地日本化,他却是做为中国人,为了中国人而研究着日语和日本文学,更为了教育中国的学生而返回了祖国(顺带一提:小泉八云在日本病逝并葬于日本)。很荣幸,我也参与了本书的撰稿作为撰稿人,本不应该妄自评价赵平对日本文化的理解力及其日语能力……

本来,被称做“巴别塔”的太古神话,其舞台并不在中国,不过因那里是所有文化的发祥地,也可以是贵州的贵阳。当时的人类都讲着同一种语言,人口逐年增长,他们积石不止,终于建起了高可及天的一座塔,这是要让天帝大吃一惊啊。天帝为人类的进步而高兴,但一时想来个恶作剧,于是变乱了人类的语言。昨天还因了了不起的团队精神而展开浩大工程的人类,却由于语言不通而无法同心协力了。于是人们逐渐互相疏远、互相谩骂、互相殴打,终于,塔崩溃了。此后,讲同样语言的人们聚集成群,分居到世界各地,组成民族,纷争至今。

神意难测,天帝也许本来就有惩罚人类的想法,而如今说不定却在欣然地注视着人类毫不懈怠的努力。这次以赵平为首的精锐部队编著的本书的面世,也是这种努力之一吧。高素质的学子们,如果您们珍惜光阴、勤勉向学的话,选择这本教材就显示出您们的远见,没有比这更为可靠的掌握日语的方法了。当然,如果太阳从西边升起东边落下,则当别论。日语之于诸位虽不是与生俱来的,但作为后天学得的又一种语言,去达到像鸟儿啼鸣那样,用它流畅地与日本人交流吧。如星火之燎原,这样的日语教育如果得以普及,中国和日本之间的交流将达到更高的层次。

当然,会说对方的语言,并不意味着能完全理解对方的心情。“巴别塔”倒塌以来,几经星霜,如今,在语言的问题之外又出现了文化差异。我希望学子们在学习日语的同时,还要思索中日之间文化的不同。交流的手段并非仅有语言,还可以通过各种方式达到相互理解。正如愚公移山的典故,长期不断的交流可一寸一寸地把鸿沟填平。在这样努力的同时,以本书为向导将日语学起来的话,相信总有一天,当我们回首往昔时会慨叹:“那时我们之间曾经有过很深的鸿沟啊!”

诸位,谨祈勤学不倦!

(汪 捷 译)

目 次

序	I
第1篇 一期一会	1
《一生一度之缘》句法问题三人谈	14
第2篇 A市の大見屋	23
「A市の大見屋」を読んで	43
《A市的大见屋》中助词、助动词的运用	48
第3篇 四月八	56
简论《四月八》的翻译技巧	67
第4篇 私の宝物	74
《我的宝物》译后	78
第5篇 南明河	84
「南明河」の言葉遣いに関する放談	93
《南明河》赏析	101
第6篇 銀の簪	107
关于《银簪》的语言表现特征	121
第7篇 帰郷	130
「帰郷」の修辞的(レトリカル)特徴について	156
《归乡》译文浅析	159
第8篇 奇縁	168
「奇縁」の行間に読む真意	181
「奇縁」におけるオノマトペとその中国語訳の考察	184

论《奇缘》中的拟声拟态表现	193
第9篇 秦娘美	199
「秦娘美」の言葉遣いに関する対談	228
第10篇 項を曲げ天に向ひて歌ふ、	243
「項を曲げ天に向ひて歌ふ」を読んで	306
「項を曲げ天に向ひて歌ふ」の言葉遣いについて	312
第11篇 朝の挨拶から始まった日本の留学生活	324
「朝の挨拶から始まった日本の留学生活」の言葉使いに関する放談	336
文学作品的中文翻译	344
一生一度之缘	344
A市的大见屋	351
四月八	363
我的宝物	368
南明河	369
银簪	374
归乡	380
奇缘	394
秦娘美	401
曲项向天歌	413
“早上好”，我们的留学生活	445
参考文献	451
后记	454

第 1 篇

一期一会^①

いち ご いち え

趙 平

三年前の夏休み、私はある中学校で教師をしている知人に招かれ、^{ながのけん}長野県に行った。森の中の一角にある^{やまごや}山小屋に泊まり込み、彼の教え子たちと中国文化について語り合う機会を持ったのである。子供たちは大変熱心で、毎日夜遅くまで私の話を聞いてくれた。

いよいよ子供たちと語り合う最後の日となり、お別れパーティーで、羊の焼き肉をすることになった。私は友人のぼろバイクを借りて、マトンを買いに行った。

田舎の町でマトンを売っているスーパーを探すのは^{ひとくろう}一苦労^②だった。やっとのことで^③手に入れ、^{きろ}帰路についた^④ころには、すっかり日が落ちてあたりは暗

① 一期一会：一生只遇一次。茶道用語。宗二(1544—1590、茶道鼻主千利休の弟子)《山上宗二记》：“一期に一度の会”。◇一期一会の出会いと思い、大切にもてなす。／想到这是难得的相逢，所以要好好款待。

② 一苦労：费了点力气；费一番辛苦。“一”，接头词。◇彼は意地っ張りだから、説得も一苦労だ。／他人很倔，劝他要费点劲。

③ やつとのこと：费了好大力气；好歹；好不容易才……。◇大量の宿題を、やつとのことですづけた。／好不容易才把这么多的作业做完。

④ 帰路につく：踏上归途。◇残業で、10時をまわってようやく帰路についた。／因为加班，过了10点才回家。

くなっていた。私は遅くなったことに焦りを覚え^①、アクセルをいっぱいにかした^②。しかしバイクは、年取った牛のように音だけを大きく響かせながら、相変わらずのろろと走るだけだった。いつの間にか、私は黒松の森に挟まれたでこぼこの砂利道に迷い込んでいた。

前方に交差点が見えてきた。どうも広い道があるようだ^③。前方を確かめるため、アクセルをゆるめ一時停止をした。そして、発進しようとした^④のだが、そういうときに限って^⑤、バイクはエンスト^⑥をおこしてしまった。仕方なくバイクを降り、しつこくキックを繰り返すうち、やっとのことでエンジンがかかり、再びバイクに乗って広い道路に突っ込んだ。

道端の黒松に視線を遮^{さへぎ}られてよく見えなかったせいもあり、右の方から猛スピードで走ってくるトラックに気がついたときには、すでに遅かった。危ない! と思って、エンジンをふかし、素早く逃げようとした。が、スピードが出ない。次の瞬間、ドカンという大音響とともに、自分の体が秋の枯れ葉みたいにフワッと舞い上がったような気がした。

気がつくと、道の反対側に飛ばされていた。全身に激痛が走って、呼吸が苦しい。バイクはトラックの下に引きずり込まれ、原形をとどめず^⑦、単なる鉄のかたまりになっていた。

まもなく、ピーポー、ピーポーというサイレンの音とともに、私は病院に運ばれた。レントゲンが撮られた。右半身の、肋骨から膝、足首、足の指まで、何ヵ所

① 焦りを覚える: 感到焦急。◇友人は次々と結婚が決まり、ひとりだけ取り残されて焦りを覚える。／朋友一个接一个地都把婚事定了,只有自己落单,急煞人。

② アクセルをふかす: 踩油门。◇交差点で止まっていると、後ろの車が急がすようにアクセルをふかした。／我在十字路口刚停下来,后面的车子就踩油门,像催我似的。

③ どうも～のようだ: 非常像……; 总觉得好像……。◇彼は必死で隠しているが、どうも彼がしゃべったようだ。／虽然他拼命掩盖,但似乎就是他说出去的。

④ (う)ようとする: 要做某事。◇家を出ようとしたとき電話が鳴った。／刚要出门电话响了。

⑤ に限って: 只有,唯独。◇私の息子に限って、そんな馬鹿なことはしない。／唯有我儿子不会干那种傻事。

⑥ エンスト: (engine stop 的略语) 发动机停止工作。◇免許取り立てのドライバーは、よくエンストをおこす。／刚拿驾照的司机开车常熄火。

⑦ 原形をとどめない: 未留下原形。◇破壊され尽くして、もはや原形をとどめていない。／完全被破坏,已不成样子。

も複雑骨折しており、頭の右側も腫れ上がっていた。警察の人の話では、あれだけの衝突で命拾^{いのちひろ}いしたのがむしろ奇跡だったらしい。

私は入院生活を余儀^{よぎ}なくされた。初めの一週間は、骨折した箇所がぱんぱんに腫れ上がり、体は言うことを聞かず^①、言葉では言い表せないほどの痛みにただただ耐える苦しい毎日だった。

九死一生の事故に遭い、その激痛との戦いで、天井をじっと眺めて我慢するのが私の日課^{にっか}となった。そんなある日、看護婦さんがやってきて私に言った。

「お友達が見えていますよ。」

看護婦さんの後ろに、目を細めて微笑^{ほほえ}んでいる藤田先生^{ふじた}の顔が見えた。

藤田先生を知ったのは、阪神大震災のあとである。それは、震災のボランティア活動を通じて知り合った芦屋^{あしや}の青木さんという女性の家で、彼女に英語を教えていたときのことだった。私は彼女と冗談をとばし^②ながら大きな声で笑っていた。すると、たまたま青木さんのお母さんに鍼灸の治療をしに来ていた男性に、ドアを叩かれて、「お年寄りを治療しているところだから、大きな声を出さないで」と注意されたのである。「あら^③、藤田先生が怒っている」と青木さんは舌を出し、首をすくめた^④。

これが私と藤田先生との「出会い」ともいえ^⑤よう^⑥か。その後、青木さんのお

-
- ① 言うことを聞かず: 不听使喚。“ず”是(助动词・特殊型)ぬ、ない的文语形,表否定。◇寒さで手がかじかんで指先が言うことを聞かず、何度も失敗した。／手冻僵了,手指也不听使唤,失败了好几次。
- ② 冗談を飛ばす: 开玩笑。◇あの先生は授業中、いつも冗談を飛ばしている。／那位老师在上课时总开玩笑。
- ③ あら: (感叹词)表惊讶,女性多用。◇あら、こんな所でお会いするなんて。／哎呀!没想到能在这儿见到你!
- ④ 首をすくめる: 缩了缩脖子。◇突然雷鳴がとどろいて、思わず首をすくめた。／忽然一声炸雷,我不由得缩了下脖子。
- ⑤ ～といえる: 可以叫做……。◇この実験結果から、仮説は妥当だといえる。／实验结果说明这个假说可以成立。
- ⑥ よう: (助动词・特殊型。接一段・下一段・力変・サ变活用动词以及助动词“れる・られる・せる・させる”的未然形之后)表说话人的意志・推量等。◇こんなことが許されようか。(反語)／这种事怎能原谅呢?

宅で、治療を施している藤田先生の姿を二、三回ちらっと目にした^①ことがあった。だが向こうは私のことに気がついていない様子もなかったし^②、^{もちろん}勿論言葉を交わした^③ことは一度もなかったのである。

「先生、どうして……お久し……ぶりで。」

「大変なことになったね」と言いながら、藤田先生はリュックからいくつか小さな紙袋を出して、^{いたずら}悪戯っぽい^④表情で私に言った。

「これ、僕が調合した^{かんぽうやく}漢方薬だ。看護婦に内緒^⑤で飲んでみな^⑥。」

「どんな薬ですか。」

「血の循環をよくする薬だよ。わりと評判が良くって^⑦……それと、こんな薬も薬局から買ってきた。」

藤田先生はリュックから大きなガラス瓶を取り出した。中に、カルシウムを^{おぎな}補う錠剤がいっぱい詰まっていた。

「先生はなぜここに？」

藤田先生は、私の不思議がっている^⑧様子を見て、片目をつむって悪戯っぽく笑った。

-
- ① 目にする: 看见。◇彼女がたばこを吸うのを何度か目にしたことがある。／有好几次看到她抽烟。
- ② し: 举出一个主要条件, 导出下句的结论, 或者暗示言外之意。◇雨も降っているし、今日は早めに帰ろう。／又下着雨, 今儿就早回吧。
- ③ 言葉を交わす: 交谈。◇学会は、有名な先生と言葉を交わすまたとないチャンスだ。／参加学会可以获得和名家交谈的难得的机会。
- ④ ～っぽい: 表具有某种倾向或感觉。◇彼女は時々子供っぽいことをする。／她有时会耍孩子气。
- ⑤ ～に内緒: 对……保密。◇このことはお母さんには内緒だよ。／这事不许跟妈妈说呀。
- ⑥ 动词连用形+な: 表命令或劝诱。◇早く服を着な。／快穿吧。
- ⑦ ～って: “……ということだ”的变化形式, 表从别处听来、听说。◇最近調子が悪くって、食欲がないんだ。／据说最近身体不舒服, 所以食欲不振。
- ⑧ がる: (接尾・五型。接在形容词、形容词词的词干以及助动词“たい”的“た”后面构成五段动词)觉得, 感觉。◇そんな顔を見ると、子供が怖がるじゃないか。／做出那副样子, 小孩子会害怕的。

「僕は地獄耳^{じごくみみ}①なんだよ。」

どうも藤田先生は、青木さんが電話で私が交通事故に遭ったことを話しているのを立ち聞きして知ったらしい。そうして彼は、西宮市にある小さな診療所を休み、車で長野県までやってきてくれたのだった。聞くと、昨日の十二時に病院に^{たど}辿り着き、車の中で一夜を明かしたとのこと②。先生はホテルに泊まるのが嫌いで、車の中で寝るのを趣味にしているのだそうだ。

「わざわざありがとうございます……。」

「おいおい、わざわざ来たわけではない③よ。このあたりの山々を前から見たかったので、ついでに来たのさ④。」

「これからまたどこかへ行かれますか。」

「一^{いっしょうびん}升瓶をぶら下げて周りの^{あぜみち}畦道をぶらぶらするつもりだ。それも結構、^{ふうりゅう}風流なもんだ。そうだ、旧友を訪ねても良いな。ところで君、いつ神戸に帰るつもり？」

「いつって……？」

私は言葉に詰まった⑤。本当は一刻も早く帰りたいかった。家の近くで治療すれば、気分的にゆっくりできる。大学の本を読んで病院でのこの^{ないくつ}退屈さを^{まぎ}紛らわす⑥こともできる。それに、妻は出産したばかりだった。しかし、こちらの知人は車の免許を持っていない。タクシーで神戸まで帰る手もある⑦が、私には負

① 地獄耳: 比喻耳朵尖。◇彼は地獄耳だね、どんな噂話も知ってるよ。／他真是顺风耳, 什么小道消息都知道。

② とのこと: (=ということ) ◇先生から連絡があつて、来週の講義は休講とのことですよ。／老师有话, 下周的课不上了。

③ ～わけではない: (部分否定) 并不是; 并非。◇言葉が分かるわけではないが、外国の歌を聞くのが好きだ。／虽然听不懂歌词, 但喜欢听外国歌。

④ さ: (男子常用终助词, 接在句子末尾、活用语的终止形、形容动词的词干下) 在此表增添轻微断定语气。◇誰って、君のことさ。／你说会是谁呢? 就是你!

⑤ 言葉に詰まる: 语塞。◇全く気づいていなかった矛盾を指摘されて、壇上で言葉に詰まってしまった。／当被指出自己从未注意到的矛盾时, 我在台上顿时说不出话来。

⑥ 退屈さを紛らわす: 解闷。◇退屈さを紛らわすために誰彼ともなく電話する。／为了解闷, 他到处打电话。

⑦ ～手がある: 有……方法。◇その手があったか! / 原来还有那个办法!

担できない金額である。私と知人は、どうやって神戸に帰るのか頭を抱えていた^①ところだった。

「君はついている^②。ついでだから僕の愛車^{あいしや}に乗っていかないか？ 手続きをしてあげるから一緒にドライブしながら帰ろうじゃない^③か。」

藤田先生はそう提案してくれた。

翌日の朝早く出発しよう、ということで話がまとまった。藤田先生は私の枕元に封筒を置き、「少ないが、お見舞いだから使いな」と言い残して出ていった。

封筒を開けて見ると、福沢諭吉^{ふくざわゆきち}^④が五枚も入っていた。

翌日の朝五時に藤田先生はやってきて、看護婦と組んで、私の寝ているベッドを玄関まで押していき、私を抱き上げて、車の後部座席に寝かせてくれた。後部座席は改造されていたようで、私が横になるには十分な広さだった。

知人も駆けつけてくれ、「絶対、事故を起こさないように気をつけて運転して帰って下さい」と、念を押す^⑤ように何度も藤田先生に頭を下げた。

「大丈夫ですよ。ご心配なさないで下さい。私は、他人の車に乗って二度ほど事故に遭ったことはありますが、自分の運転で事故を起こしたことはありません。この車とは信頼関係ができていますからね」と藤田先生は言いながら、ブルーとエンジンをかけた。なぜかそのとき、「二度あることは三度ある」^⑥という諺が私の脳裏^{のうり}を横切った。

長野県から神戸まで、車だと結構長い道のりだった。車はスムーズに高速道路を走ったが、小刻みな振動に私の体が痛み続けた。「早く神戸に着かないか

① 頭を抱える：(为某事烦恼而)抱头。◇人は足りない、金はない、八方ふさがりで頭を抱えている。／人手也不够，钱也没有，四处碰壁，真叫人头疼。

② 君はついている：你真幸运。◇道で拾った宝くじが当たっていたなんて、君はついているな。／路边捡到的彩票居然中了奖，你真幸运！

③ ～じゃないか：即“～ではないか”，表委婉的劝诱。◇今夜は心ゆくまで語り合おうではないか。／今晚我们尽情地谈吧！

④ 福沢諭吉：明治时期人，日本民主主义先驱者，著有《学問のすすめ》。因一万日元上印有其头像，所以“福沢諭吉”在此表一万日元的意思。

⑤ 念を押す：叮嘱。◇彼はおしゃべりだから、口外しないように念を押した方がいい。／他很多嘴，还是叮嘱一下不要说出去的好。

⑥ 二度あることは三度ある：(谚语)凡事有二就有三。◇二度あることは三度あるというから、同じ場所で転ばないように気をつけろよ。／俗话说，凡事有二就有三，要当心不要再在同样的地方跌倒！